

中島邦雄* 琉球の新外来品について (一)

Kunio NAKAJIMA : On the newly naturalized plants found from Ryukyus. (1)

1. インドナガボソウ (水島正美, 新称) *Stachytarpheta indica* VAHL. クマツヅラ科 (Fig. 1, 2)

ナガボソウ属は約50種が、主にアメリカの熱、亜熱帯に産する。1967年9月12日、筆者は北谷村(中頭)謝苺の路傍で一種のナガボソウを採集し、その標本を牧野標本館に送ったところ、水島博士からの指摘で新外来品と分った。ここに本属(*Stachytarpheta*)の1種を記録しておく。本種はナガボソウに比較して、萼に長毛がなく、ザラザラし4裂することによって判別できる。インドナガボソウは高さ35-130 cm。葉は長さ5-7.5 cm, 幅2.5-4 cm, 縁に11-18の鋭鋸歯があり、柄の長さ1-3 cm。穂はさすがに本属を象徴するだけあって、花が咲き始めの頃は5 cm足らずのが、開花にしたがって伸長して行き、長さ17-74 cm, 径4 mmになる。花は径1-1.5 cm, 青紫色、一回に1-7輪咲き、1穂に250-300輪位着花する。読谷(瀬名波)恩納(貞栄田, Jul. 12, 1967), 石垣島石垣市近郊, Apr. 16, 1968)の畑地や原野などで、筆者は採集している。

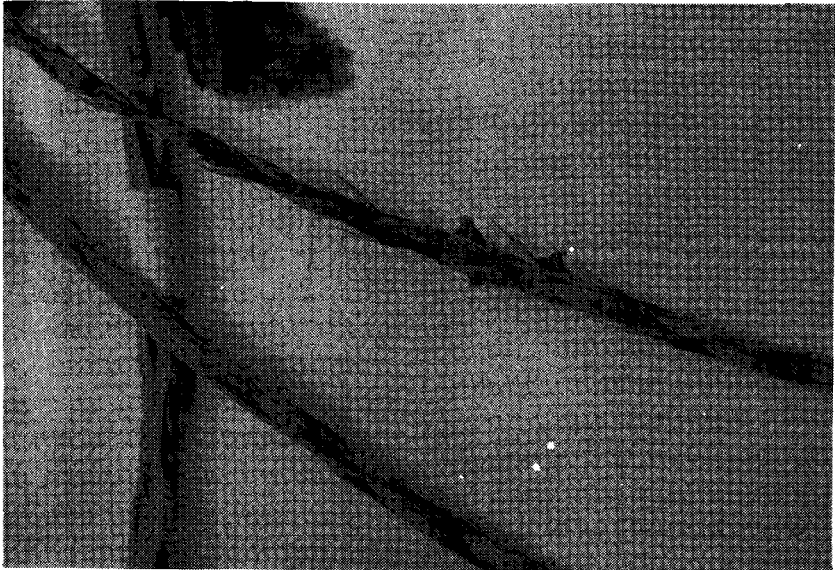


Fig. 1 Inflorescence of *Stachytarpheta indica* VAHL.

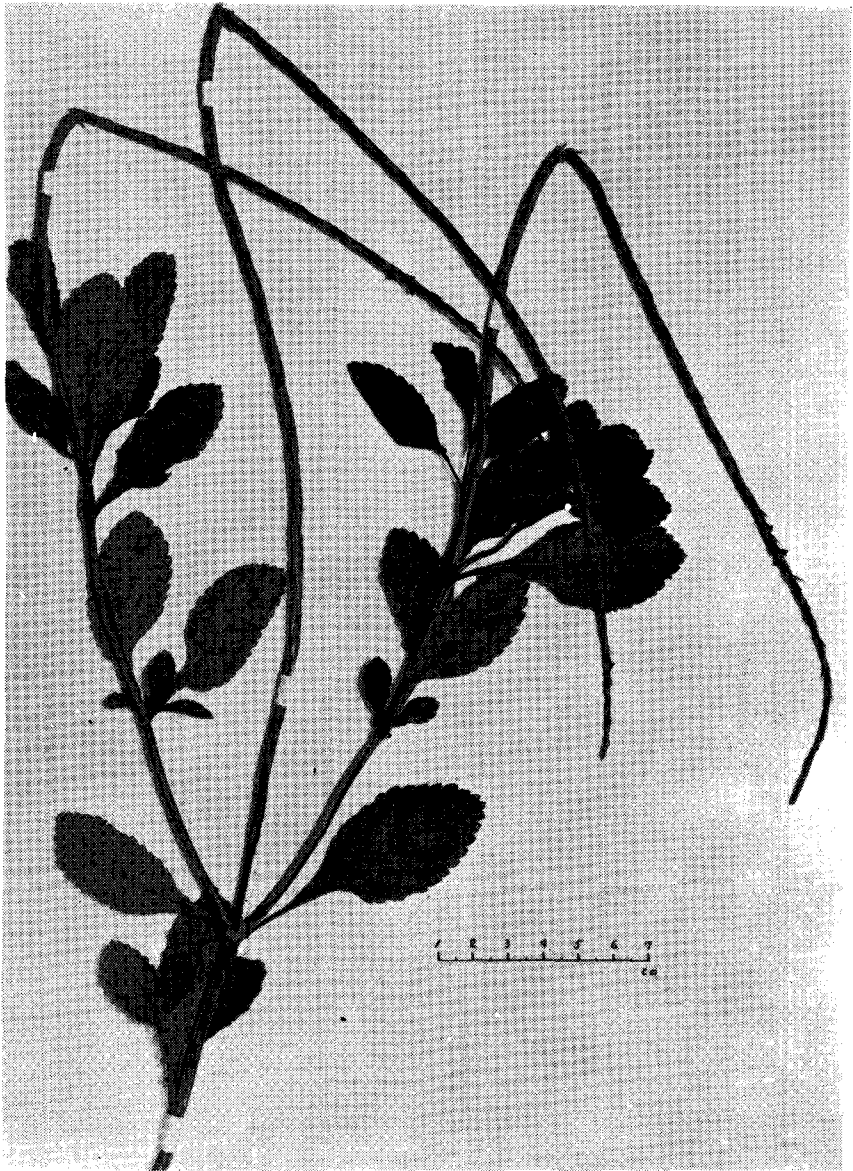


Fig. 2 インドナガボソウ (新称) *Stachytarpheta indica* VAHL.